



# かわにし

精華町立川西小学校

検索

学校だよりはHPで  
カラーで見れます

めざす児童像  
よく学び 心豊かで 元気な子  
精華町立川西小学校 学校だより  
令和7年5月30日 6月号

## 5月も子ども達ががんばりました！

… 校長 竹花 真治 …



今年の5月は、暑い日が続いたり、涼しくなったり…、そんな天候不順な中でも子ども達、学習に、行事に、様々な活動をよく頑張ったと思います。

6年生は、8・9日と修学旅行に行きました。友達との交流、思いっきり楽しんだスペイン村、風の中の鳥羽湾巡り等、思い出深い2日間になったことでしょう。時間を守る規律ある行動も素晴らしかったです。23日の1年生をを迎える会では、児童会を中心に、1年生を歓迎する温かな時間を作る出してくれました。その後のなかよし班遊びでは、6年生が遊びを考え、高学年のリーダーシップのもと、楽しく交流できました。



28日には2年生が1年生をつれて学校を案内する「学校探検」が行われました。この日に向けて、各教室の説明書き等を準備し、優しく案内できた2年生、とても頼もしく感じます。

来週からはもう6月！ 4日には6年生の町陸上運動交歓記録会、6日から5年生林間学習、11日には文化鑑賞会と（今年度は音楽鑑賞。参観していただけます）子ども達にとって楽しみな行事が続きます。学習の方も一学期後半に向け進んでいます。

これから梅雨に入りつつ、暑い夏に向かいます。子ども達がまた一つ成長する6月になるよう、教職員一丸となって、教育活動に励みたいと思います。



### 各ご家庭での「子育て観」は…？

CHANGE!!

毎年12月、「今年の漢字」と言われる恒例的なイベントの中で、かなり前になりますが「変」という字が選ばれていました。政治・経済・生活・気候等…、様々なことに「変化」があった1年の世相を表したのが、この一文字だったと思います。

ここ最近も、様々なことに変化があり、天候などは最たるものですが、コロナ禍や混沌とする世界情勢…、学校教育に関しても、1人1台タブレット端末の導入等、ありとあらゆるところで変化がおこっています。様々なことが変わっていく中で、家庭・親の「子育て観」というものも変わってきたと言われています。

最近、「家庭の役割」が大きくクローズアップされています。ニュースを見ると、少年による犯罪や、児童虐待・家族によって命が奪われる事件等、聞くに堪えないことが数多くあります。

その度に「学校・家庭・地域社会の役割は…」などと何度も議論が交わされます。子どもの教育に関わっては「学校・家庭・地域社会」の連携とともに、それぞれが自らの役割をしっかりと果たしていくことが大切であることは、言うまでもありません。中でも「家庭の役割」は非常に大きなものがあると思います。各ご家庭において、子育てに関わって意識されている、「子育て観」は、どのようなことをお持ちでしょうか？



少し前になりますが、「家庭教育・子育て観」に関する内容の本に出会いました。タイトルは「自分の子さえよければ」とつけられていました。その内容ですが…

ある親が息子の就職のことで、その本の作者のところに相談に来られたそうです。その時の相談に来た親の言い分です。

「うちの息子は一人息子で、よそ様の子とは違いまして大事に育てましたので、あんまり骨の折れることや、身体を荒っぽく使う仕事には向かないと思うんです。できたら倒産のない会社か役所のようなところが一番適当だと思うのですが、〇〇さんのお顔でどこか安定した、いい職場をお世話していただければと思います…」書いていてもあきれん思いがしますが、作者はこの言い分が多くの家庭の「本音」ではないかと述べています。

その親の話を要約すると

- ・我が子にはなるべく骨を折らせたくない（その反対、他人の子ならいくら骨を折ってもかまわぬ）
  - ・我が子には一生安楽な生活をさせたい。途中で仕事に対して不安な思いをさせたくない（我が子に苦勞させたくない）
- 何とも身勝手に感じる話ですが…。

この親の心の底には、できれば苦勞を子にさせたくないという切ない気持ちもあるわけで、一概に否定できません。しかし、こういう親のエゴが結果的には子ども自身をだめにしている、さら

には自分の子さえ幸せならば他人の子はどうなってもいいという、自分勝手な姿勢がそっくりそのまま子どもに移って、自己中心的でわがままなブレーキのきかない多くの現代っ子をつくっている…、と作者は世を憂う思いを語っています。

何気なく使う言葉や日々の行動の中に、その家庭の親の姿や子どもへの関わり方が表れるといいます。「また、消しゴムなくしたの！仕方ないね、すぐ買ってきてあげる…」「もう、習い事の時間はじまるよ！遅れたらあかんし、車で送ってあげる！」「えっ？またゲームソフトほしいの？ 今度テストでいい点とったら…」

一見子どもに対しての「優しさや愛情」が感じられる言葉かもしれませんが、しかし、子どもへの関わりの中で、今経験させるべきことや、考えさせなければならないことを奪ってしまっていることがあるようにも感じられます。



作者は話の続きとして次のようなことを語っています。

- 一 『ラクしてカッコよければ幸せか？ 逆に骨を折ることは不幸か？ 人間の本当の幸せとはいったい何だ？』
- 二 『ごく普通の順序でゆく限り、子どもは親亡きあと一人で生きてゆく。そのあと子どもが、どんな苦勞にあうかわからぬ。』
- 三 『子どもは将来を生きる。たとえ、親よりも苦勞することがあっても、親よりもたくましく・親よりも粘り強く、人生を生きぬいてゆく力と知恵を子どもに与えておく、それが一番正しい家庭・親の愛情であり義務である』と…。

そのために、子どものうちに自分の思いが通らぬ体験『勝負に負けること・恥をさらす体験・かっこ悪い体験・がまんすること、人前で謝ること…』などをさせておくべきと、作者は言っています。（これらも非認知能力の一つと考えます）

読み終えた後、私の「子育て観・子育て」はどうだったのか…、と考えさせられる本との出会いでした。（私は成人している3人の子がいます）

日々、忙しく流れる時間の中で、各ご家庭では、子育てについて様々な事を考えられ、そして時には、悩んでおられることと思います。子育てに絶対的な「法則」などはありません。子ども一人一人に合った支援が大切であることは言うまでもありません。上記も、一つの考え方であり、これが全てではありませんが、**家庭も学校も、その子に合った「方針（観）」を持つことは大切です。**

現代において、昔からの「教育観・子育て観」からの「変化」は、必要なものもあると思います。子ども達のより良い成長のために、変化を受け入れながらも、今の子ども達に合った関わり方は、常に考えていかねばならないと思います。子育ての大きな目標である、子どもがいつの日か『自立！』する日に向けて…、**学校は「教育観」、ご家庭では「子育て観」をしっかりと持ちながら、連携を密に、子ども達を育てていきましょう。**

